



「子どもが自分で来て、帰ることができる近所の遊び場」

コロナ禍に見直したい  
子どもが育つ外遊び

具をそろえています。  
子どもたちは自分の好きな時間  
にやってきて縄跳びをしたり、段  
ボールをそりにして滑ったり。暑  
い日にはブルーシートが即席プー

ルに早変わりすることも。季節、天候に合わせて、子どもたちは上手に遊びを見つけます。

最近では親と子どもが参加するケースも増えています。「子どもと留守番をしているけれど、一緒に何をしていいのか」と困る保護者の息抜きにもなっています。

「コロナの感染防止から、まだ遠出をためらう方もいるでしょう。近場にあつて自由に遊び過ごせるプレーパークを見直してもらえた」と塚本さん。

5月に入り、お出かけにぴつたりのシーズン。原則、平日に行う「にいのみ池ブレーパーク」ですが、5月5日の「子どもの日」に合わせ、年に一度の祝日開催を予定しています。「遠出はしづらい密になる室内遊びはためらう」という人は参加してみては。

**親子対象の窓口を設置  
身近な遊び場が増えたら**

プレー・パークをより保護者にも身近に感じてほしいと、昨年から

緑児童館が立ち上げたのが「遊育クラブ」。これまで子ども達がプレーパークを訪れるきっかけは、友達から聞いたという口コミがほとんど。保護者が興味を持った場合、遊育クラブは問い合わせの窓口を担います。遊育クラブのクラブ員対象は親子で、希望する保護者は遊びの企画立案、プレーパークでの活動と運営する楽しさを学ぶ機会もあります。遊育クラブのクラブ員となり、プレーパークに参加しても費用は無料。参加回数

も自由です。遊育クラブを介さず直接足を運んでもプレーパークには参加できます。

塚本さんは「各学区とまでは難しいですが、地域ごとに遊び場を設置するのが目標です。子どもが自分で来て、帰ることができる近所の遊び場。そんなプレーパークをたくさん設置したい」と目標を掲げます。

「塾をはじめとした習い事、遠くまで足を延ばす自然体験、プログラムなど、子ども向け体験プランは数多くあります。大人が決めた時間、内容に沿つたものが多いなか、子どもが自分で遊んで育つ場所の存在も大切です」。

子どもだけでなく、見守りボランティアとして参加する大人も多くの、いのみ池プチーパーク開催時は子ども30人弱、大人10人弱と盛況です。子ども、そして大人も遊びながら楽しめるプレーパーク。外遊びのひとつの中折肢に加えてみては。



海池公園内にある、いのみ池プレーパークは  
型の小屋を目印にしよう。高台にあり新海池公  
園を見渡せるロケーションを誇り、周辺は小さな  
草原の斜面と遊び場がいくつも広がっている

子どもが自ら冒険し  
のびのび遊べる自由な場

**子どもが自ら冒険し  
のびのび遊べる自由な場**

の遊び場に疑問を感じ、始めました。

にいのみ池プレーパークを主催するのは緑児童館。「ガクちゃん」の愛称で親しまれる館長の塚本岳さんの周りには、子どもたちの輪が自然とできます。塚本さんは長くプレーパークの管理・運営を経験し、東日本大震災発生後には被災地でプレーパークによる子どものメンタルケアに取り組みました。

「プレーパークは外で思い切り

雨の日は雨宿りがてら読書、将棋をする子もいます。どんな過ごし方をしてでも自由です」。



自ら遊んで育つ  
プレーパークで  
**外遊び！**

決められた遊具、プログラムで遊ぶのではなく  
子どもたちが自由に自主的に遊ぶプレーパーク。  
緑区には名古屋市で最も多い4カ所が設置されています。  
遠出せず、比較的、密を避けられる外遊びとして  
近所の遊び場が注目されています。

問い合わせ先／052-623-9656（緑児童館） 文／南部武寛 写真提供／緑児童館 デザイン／chica